

令和7年

新たな門出、期待を胸に 二十歳のつどい

令和7年の式典の対象者は、平成16年4月2日から平成17年4月1日に生まれた269人(男性151人、女性118人)。1月12日の式典当日はそのうち205人が来場し、中央公民館「邑の森ホール」で開催されました。

会場には、華やかな振り袖や羽織袴、真新しいスーツに身を包んだ二十歳の若者が晴れやかな笑顔とともに集い、懐かしい顔を見つけては互いを祝い合いました。

式典に立った橋本光規町長は「今年の干支は『へび』」

橋本町長

であり、新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を表す年だとも言われています。皆さんの若き自由な発想と、大胆な行動力をぜひ、町のために発揮してください」と激励しました。

続いて黒田重利町議会議長は「若い情熱と希望を持って、多くの問題に立ち向かい、これからの時代の若き担い手として、大きく成長されることを強く希望します」と祝辞を述べました。

黒田議長



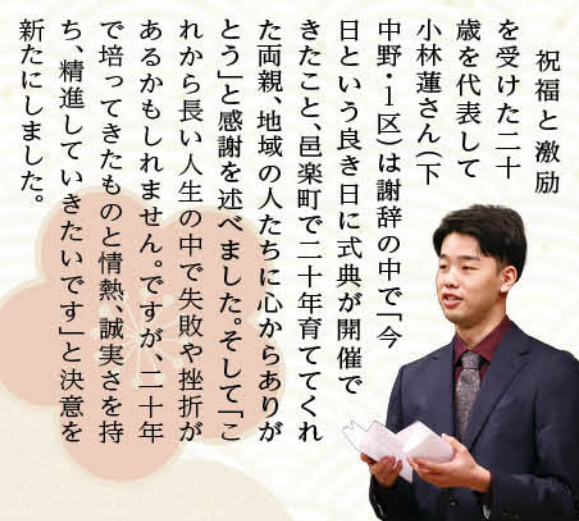
8年前に長柄小学校の卒業生が大切な物を入れたタイムカプセルも登場

掲載しきれない写真
少しだけあります

Photo
Motto



企画から準備、当日の司会進行までをやり遂げた二十歳のつどい実行委員の皆さん



実行委員長 小林蓮さん

祝福と激励を受けた二十歳を代表して小林蓮さん(下中野・I区)は謝辞の中で「今日という良き日に式典が開催できたこと、邑楽町で二十年育ててくれた両親、地域の人たちに心からありがとう」と感謝を述べました。そして「これから長い人生の中で失敗や挫折があるかもしれませんが、二十歳で培ってきたものと情熱、誠実さを持ち、精進していきたいです」と決意を新たにしました。